

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第4回高松市創造都市推進懇談会（U40／第7期）	
開催日時	令和7年7月8日（火）午後6時30分～午後8時	
開催場所	高松市防災合同庁舎 3階 302会議室	
議 題	1 創造都市関連施策に係る意見交換 2 その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	
上記理由		
出席委員	多田委員、瀬戸委員、竹森委員、金川委員、藤田委員、伊澤委員、田村委員、沖津委員	
市参加者	農林水産課	末原補佐、橘係長
	観光交流課	谷口係長、宮崎主事
	広聴広報・シティブロモーション課	千馬係長、谷岡主任主事、徳田主事
傍聴者	1人	
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411	

### 審議経過及び審議結果

1 開会

（事務局から開会挨拶）

2 意見交換

【会長】

意見交換を行っていきたい。最後に、各グループで、どのような話をしたのか、全体で共有する時間を持ちたい。

**（各グループで意見交換）**

【会長】

グループごとに、どのような意見交換をしたのか、発表してほしい。

## 審議経過及び審議結果

### 【広聴広報・シティプロモーション課グループ】

前回会議で、TKMT の普及を進めるため、小学校でワークショップを実施する案が出ており、実際に実施した。その内容は、TKMT とは何かから始まり、TKMT で食べ物や学校内のものを表現した後、学校校舎の写真と関連付けた作文を制作するといった段階的な構成にした。これにより、地域理解が深まるだけでなく、街中を散策しながら TKMT を考える、街歩きとしても活用できる。このプログラムは初級編として、中学生や小学校高学年向けには難易度を調整した内容や、座学と街歩きをセットにしたフィールドワーク形式の教材として活用できる可能性もある。

高校生向けには、難易度を上げるために、具体的な条件やターゲットを設定するアイデアが挙がった。例えば、「県外から初めて高松に来た高校生にどのスポットを巡ってほしいかを TKMT で表現する」「40 代男性や 50 代女性向けに考える」といったターゲットを想定することで、内容に深みを持たせる。また、この取組を広めるために指導要領のようなマニュアルを作成し、先生やコミュニティセンターの担当者に研修を実施し、学校等の教育現場で活用してもらう。

さらには、資料をホームページに掲載し、自由にダウンロードできるようにすることで、誰でも取組を展開できる形にする。

また、学生が集まるイベントでは、親しみやすい形で TKMT を活用するために、「TKMT フォトスポット」を作り、楽しみながら関わってもらうのも良い。

### 【農林水産課グループ】

県内の魚を家で食べてもらう「内食需要」の拡大を目標としている。県内の魚には、オリーブハマチ、鯛及びタコなどがあり、これらを身近に届ける手段として、食事の中で登場する機会の多い、寿司や海鮮丼が適していると考えている。

①商品のブラッシュアップと②消費拡大のためのイベント（PR）を検討した。

#### ①商品のブラッシュアップ

・県内の調理系の学校でコンペを開催し、高松の魚を使ったオリジナル寿司や海鮮丼を作ってもらおう。例えば、サーモンアボカドやカリフォルニアロールなど、他地域で生まれた創作寿司のように、学校ごとに独自のアイデアをいかした料理を考案してもらおう。

・県内の寿司店や海産物料理の有名店に監修を依頼し、その技術を学校や専門店を活用して商品を作りあげる。

## ②消費拡大のためのイベント（PR）

- ・高松の魚を使った商品をふるさと納税やサブスクリプションサービスで届ける。
- ・親子や魚を消費するターゲットが集まる場所へ直接届ける。具体的には、新屋島水族館でビンゴや魚のイラストを使ったイベントを開催し、水族館で見つけた魚でビンゴを達成した人に商品が当たるイベントを行う。
- ・干物や加工食品として消費者に届ける。

今後、商品をブラッシュアップする方法やイベントの実施案について検討する。また、回転寿司店に開発した商品を持ち込む計画を立てているが、コストや許可の取得についても、具体的に考えていく必要がある。

### 【観光交流課グループ】

玉藻公園を使って、あなぶきアリーナ香川と商店街をつなげる方法を考えた。前回会議では、アリーナの関連イベントを玉藻公園で開催し、自然と商店街への接続を促す案を話していたが、今回は具体的なイベント内容を検討した。

ファイブアローズの試合の日に、玉藻公園を黄色くライトアップしたり、チームのフラッグを立てたりして、試合の雰囲気を出すことで街全体を盛り上げる。また、試合後にファン同士が感想を共有できるよう、公園内にお酒やテーブル、椅子を用意することで交流の場を作る案も出た。さらに、試合会場で玉藻公園の入園チケットや抽選券を配布し、グッズをもらえる仕組みを作れば、自然と公園に人が集まる。

また、キッズダンサーやパフォーマーが発表の機会を求めているという話があり、夜の玉藻公園にステージを設置して、ダンスコンテストを開催する案が出た。これにより、子供たちに発表の場を提供でき、地域貢献につながる。また、コンテスト優勝者には、ファイブアローズのチケットをプレゼントし、新たなファンを獲得することで、双方にとってメリットがある形を目指すという意見があった。

さらに、商店街との連携として、選手が利用するお店を紹介し、実際に訪れてもらう仕組みを作ればよいのではないかという案も出た。

## 3 課長挨拶

## 4 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)